

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3年 2月 15日

事業所名 きらり中庄

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	16	3	<ul style="list-style-type: none"> 一部屋の中で食事、排泄、遊び等を行う為、移動の導線やスペースを変更しながら過ごしている。 パズルマット数を変えることで遊ぶエリアの広さを調整している。 活動により部屋が狭い時もあるが、他の部屋も活用し調整している。 利用児が多いとバギー等で移動スペースが狭くなる為、危ないと思う時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者から見て、常に安心してお子さんを通わせたいと思える環境にすることを意識する。 室内のスペースが狭くなる状況の時は、密にならないようスペースの確保や別の部屋の活用を行う。
	2 職員の配置数は適切である	16	3	<ul style="list-style-type: none"> 配置基準を満たし、適切である。 昨年度よりも職員数も増えて改善されたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間帯によってはお子さんに対して職員の人数が多く、声掛けや手助けが必要以上に多くなることがある。お子さんの力を伸ばす支援を行う為に、基準の職員数の中で必要な関わり方を行う。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	18	1	<ul style="list-style-type: none"> 着席して遊べるスペースと、マットに座って遊べるスペースが分かれている。 専用の通園ゲートを作成。 	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	18	1	<ul style="list-style-type: none"> 汚れに気が付いたら掃除をしている。 壁面装飾など季節に応じて工夫している。 部屋の温度湿度に留意している。 プレイエリアの広さをマット上にいる人数に合わせて変えている為、間隔をとることができている。 明るい空間作りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事スペースとなる場所に排泄交換台がある為、特に排便交換の際は換気をする他、交換場所や方法に工夫が必要。 窓のサッシや前庭の埃、シール跡の掃除等、定期的にすべき部分は多くあり、常に出来ているとはいえない為、気付いたらその都度掃除する意識をもつ。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	18	1	<ul style="list-style-type: none"> 毎年継続して何かしらの業務改善を行っている。 しっかり話し合いをして、共通理解を図っている。 1日の振り返りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善すべき所はあると思うが、どう改善すべきか分からない（書類や研修等）。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	19	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの指摘を受け、気をつけて業務にあたっている。 	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	19	0	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価はホームページにて公開している。 	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	19	0	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に第三者評価を受けることが出来ている。 第三者評価を受け、より良い支援が出来るよう改善に努めている。 	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	19	0	<ul style="list-style-type: none"> パート勤務のため、研修には参加しにくい。時間を作って参加したい。 研修の機会がある。 定期的に研修を受ける機会がある。 嘱託職員に対しては確保出来ているとはいえ、今後確保する予定。 	
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	19	0	<ul style="list-style-type: none"> 各専門職の視点から、必要な支援や手立てについて意見を出し合い実践している。 	
11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	19	0	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントシートの作成に時間を要しています。作ることに意識が向いており作った後の活用には至っているのか不明確です。 		

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援が行えるよう職員間で会議している。 ・パート職員とも共有できる時間が増やせたらと思う。 	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	19	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの職員がそれぞれ、アイデアを出し合い、工夫して支援を提供できるように、努力している。 	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	18	1		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	19	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の職員で振り返り、打ち合わせ、支援計画の立案が、できている 	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかり話し合いをしている。 ・一日の振り返りの会議をしている。 ・日々振り返りを行い、支援について共有をしている。 ・職員間で情報を共有している。 	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、職員間で振り返りを行い、意見を言いやすい雰囲気をつくっている。 ・職員全員に情報が行き渡り、意見交換も行えるようにしている。 	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	19	0		
	関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	19	0	
22		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	16	3	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて連携を取り、お子さんや事業所の状況を共有している。 	
23		（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・所属先と様子を伝え合っている。 ・保護者面談を行い学校、医療機関、家庭についての情報交換をしている。 	
24		（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡	19	0		
25		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・園訪問を行い、連絡帳でも園と連携を取っている。 ・必要に応じて、相談や園訪問を行っている。 	
26		移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	19	0		
27		他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援センターとの話し合いや相談の機会をもちやすい。 	
28		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10	9	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのない子どもとの交流はごくわずかだが、七五三の行事で保育園児と一緒に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事で一緒に過ごす機会はあるが、交流までは行っていない。コロナ禍が落ち着いた際には、ニーズも確認しながら実施出来るようにする。
29		（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	11	8	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等あった際は参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等で参加の機会があった際は参加し、事業所運営や支援に活かしていく。
30		日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのコミュニケーションを大切にしている。 ・必要に応じて懇談を実施している。 	
31		保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントトレーニングや茶話会にお誘いするなど、保護者支援も充実している。 ・支援を提供しているお子さんはもちろん、保護者や兄弟児さんにも配慮している。 	
32		運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	19	0		

保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・説明は行えていると思う。 ・支援計画更新の際に限らず、保護者から説明の要求があればその都度応じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時や降園時に支援計画の説明をする際には、個人情報への配慮が必要。可能な限り個別に別室で説明を行う。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面談の他、急な相談にも出来る限り応じている。迎えの際の引き継ぎでも必要な際は時間をとって話すようにしている。 ・降園時はその日のことだけでなく、保護者の質問に丁寧に対応する様に努めている。 	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・防災関連の茶話会を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の繋がりを深めることも意識して、交流の機会を引き続き設ける。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応して	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見、要望を職員間で共有し話し合って、タイムリーに伝えていけるよう努めている。 	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の通信で、事故報告・ヒヤリハット・苦情があった場合には記載している。 	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	19	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の理解度に合わせて言葉を変えている。 ・意思疎通を図るため、窓口となる職員を担当職員に絞っている 	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17	2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流については他事業所合同で行うことが出来ている。 ・事業所に直接地域の方を招くことは難しいが、法人としての地域住民との交流や地域の方を招いた行事には子ども達と一緒に参加している。 	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	19	0		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対してのマニュアルの説明や周知は徹底出来ていない為、説明や掲示を行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	19	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に防災訓練を行い避難に慣れることができています。 ・水害、火災など、ワンパターンにならない避難訓練を行っている。 ・毎月、防災訓練は実施している。 ・災害発生時の対応等は異動してもすぐに知ることができた。 ・毎月防災訓練を行ったり ・毎朝、利用児の緊急時対応を声に出して確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の非常時持ち出し物品、及び方法をこまめに確認する。 ・訓練の度に改善点を見つけ、より良い備えが出来るよう改善を行う。 ・保護者の方からの意見も取り入れ、安心して通うことが出来るようにする。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	19	0		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	19	0		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・事故報告やヒヤリハットがあった際には書類に記載し、全員に周知を行っている。 	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	18	1	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止の研修に参加し、理解を深めている。 	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載して	19	0		